

視覚障害者への点字情報端末訓練

－ 点字学習中の者への指導を中心に －

神奈川県総合リハビリテーションセンター七沢自立支援ホーム

矢部 健三

1. 目的

2017～2018 年度に点字情報端末（以下「端末」）訓練を実施した 3 事例を通して、望ましい機器設定や指導法について報告する。

2. 方法

事例 1：50 代女性、網膜色素変性症、視覚障害 1 級。導入前訓練で点字読みを 39 回、端末訓練は、19 回実施。

事例 2：50 代女性、網膜色素変性症、視覚障害 2 級。導入前訓練で点字読みを 53 回、端末訓練は、16 回実施。

事例 3：20 代男性、多発性硬化症（視神経脊髄炎）、視覚障害 1 級、他に体幹機能障害有。導入前訓練で点字読みを 61 回、端末訓練は 3 回実施。

3. 結果

事例 1：読速度は 18.29 文字/分。ワープロでは、文章の聞き書きと校正、ファイル管理では、読み込み、ファイル名の変更、コピー・削除を習得。入力速度は、50 音 1 回 1 分 57 秒。

事例 2：読速度は 13.50 文字/分。ワープロでは文章の聞き書きと校正、ファイル管理では読み込み、ファイル名の変更、削除を習得。入力速度は、50 音 1 回 7 分 7 秒→2 分 15 秒、童謡「うさぎとかめ」9 分 21 秒→2 分 26 秒。

事例 3：読速度は 10.74 文字/分。ワープロで文字入力を習得。入力速度は、50 音 1 回 2 分 39 秒→2 分 29 秒。

4. 考察

事例 1 と事例 2 では、端末の「基本文書」の設定が「テキスト」の場合、文章校正時にカーソル表示やスペース表示の理解に混乱がみられた。設定を「点字」に変更することで、いずれの事例も操作ミスが減少した。導入時には「点字」に設定し、点字ディスプレイの触察に慣れた段階で必要に応じて「テキスト」へ変更する方が望ましい。

事例 2 と事例 3 では、文字入力のスピードビルディングとして童謡を歌いながらその歌詞を入力する反復入力訓練を実施した。事例 3 では四肢体幹機能障害の影響からか若干の伸びにとどまったが、事例 2 では入力速度に大幅な向上がみられた。視覚単一障害の者には反復入力訓練が有効と思われる。

